

第2版はしがき

法律文化社の「18歳から」シリーズのひとつとして、本書は2010年10月に誕生しました。それから3年以上が経過し、新たな社会の動きを受けた関連法の改正や新法の制定があることから、このたび改訂することになりました。

私たちは、この『18歳から考える消費者と法』に2つの想いを込めました。

ひとつは文字通り、18歳という年齢が、大学生になるにせよ、社会人として働くにせよ、言わば「大人への階段」を登る時期であることです。社会に出るパスポートとして、自らが消費者であることを自覚するとともに、生きていく術としての知識を学んでほしいと考えました。その意味では、本書は私たちの「18歳」へのメッセージにほかなりません。

もうひとつは、消費者法や政策が消費者のためにあってほしいとの私たちの想いです。消費者庁・消費者委員会ができ、時々の消費者問題に対応した法律の整備もすすんでいます。もっとも、その変化は、まだまだ「消費者目線」でなされているようには思えません。法は依然として難解で、政策の方向性も明確とは言えません。明確かつ平易であることは、「消費者と法」にとって大切な目標でもあるのです。私たちは「18歳」という言葉に、考える前提としての「わかりやすさ」という意味を込めました。

「消費者市民社会」という言葉が使われ始めています。消費者教育推進法の目的にもその実現がうたわれています。消費者が広く社会問題を考えるうえでの主役のひとりになるためには、何よりも私たち消費者が考え、行動することが必要です。でも、そのためにこそ、学びのための素材が不可欠です。本書がその役割の一部を担うものになることを、私たちは心から期待をしています。

本書は、私たちに消費者問題を考える視点を与えてくれた多くの方々との共同の成果です。初版に続いて改訂版の作成に関しても多くの方々にお世話になりました。本書の特色のひとつである素敵なイラストを描いていただいた安田憲司さんに記して感謝をします。法律文化社編集部の小西英央さん、瀧本佳代さんには再度面倒な編集をお願いしました。改めて謝意を表したいと思います。

2014年8月

坂東俊矢・細川幸一